

## 具体的取組

具体的取組は、各市町が実施する事業のうち、連携することにより成果が向上する、あるいはコストの削減が見込まれる等、各市町にメリットがあるもので、連携協約に基づき各市町間で協議を行い定めるものとなります。(全 49 取組)

## 【戦略1 産業の営みをつなぐ(17取組)】

産学金官民一体となった経済戦略の策定、国の成長戦略実施のための体制整備	
ものづくり人材育成事業	
今後検討する事業	新しい生活・産業様式に対応するための調査研究事業
産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業支援、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	
創業支援事業、産学官連携の推進、圏域市町の連携による企業誘致の推進	
地域資源を活用した地域経済の裾野拡大	
盛岡広域まるごとフェア開催事業、6次産業化の推進、盛岡手づくり村における圏域産品等の情報発信、盛岡手づくり村振興事業	
戦略的な観光施策	
広域観光推進事業、国際観光客誘致促進事業、MICEの誘致推進、盛岡広域フィルムコミッション事業、いわて・盛岡広域観光センター運営支援事業、教育旅行誘致事業、スポーツツーリズム推進事業、エコツーリズムの振興	

## 【戦略2 人の流れをつなぐ(7取組)】

高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築	
盛岡バスセンター整備事業、幹線道路整備事業(津志田白沢線、市道谷地頭線(厨川工区))	
今後検討する事業	広域的公共交通網の利便性向上にかかる調査研究事業、北岩手・北三陸横断道路の整備促進、盛岡西廻りバイパス北バイパスの整備促進、一般国道4号「盛岡南道路」の整備促進

## 【戦略3 暮らしの安心をつなぐ(25取組)】

生活機能の強化(地域医療、介護、福祉、教育・文化・スポーツ、地域振興、災害対策、環境)	
盛岡保健医療圏域における救急医療体制に関する検討、小児救急輪番制病院事業、第二次救急医療対策事業、盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム、保育所の広域入所、配偶者暴力相談支援センター広域連携事業、盛岡広域成年後見センター設置運営事業、障がい者相談支援事業、スポーツパル推進事業、もりおか就職面談会等、若者の就業支援事業、自然災害等対策推進事業、震災対応事業、南岩手山岳遭難対策事業、岩手県央へい獣処理協議会事業、盛岡広域鳥獣被害防止対策協議会事業	
結びつきやネットワークの強化(地域内外の住民との交流移住促進、結びつきやネットワークの強化に係る分野)	
インターンシップ事業、盛岡広域移住・定住促進事業、消費者行政の共同実施、電子入札等基盤整備事業	
今後検討する事業	地方創生SDGs推進調査研究事業、デジタル化推進調査研究事業
圏域マネジメント能力の強化(人材の育成、圏域内市町の職員等の交流)	
人材の育成、圏域内市町の職員の交流、国保盛岡地区協議会事業	

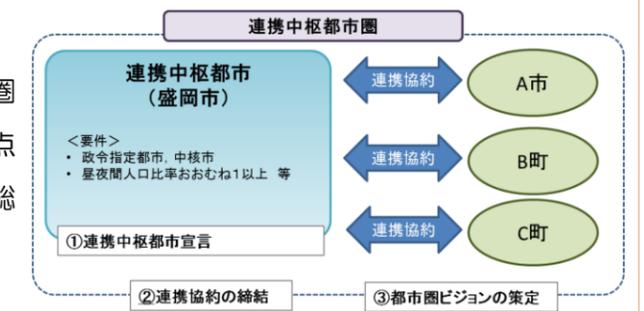
## 第2期みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン【概要版】

盛岡広域圏を構成する盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢巾町は、共通する課題について、広域圏の強みを生かしながら、連携してまちづくりを進めることで、生活の質の向上や経済の維持発展を図り、将来にわたり一定の圏域人口を有する盛岡広域圏の形成を図るため、連携中枢都市圏構想の趣旨に基き、第1期に引き続き「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」を定めるものです。



## 連携中枢都市圏構想とは

圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する、広域連携の仕組みです。取組に対して総務省から一定の財政措置がなされます。



## 取組期間と推進体制

第2期の取組期間は令和3年度(2021年度)から令和7年度(2025年度)までの5年間です。圏域の8市町の首長で構成する盛岡広域首長懇談会が、有識者で構成する都市圏ビジョン懇談会から意見及び助言を得て、事業の進行状況を管理していきます。

## 第2期ビジョンの取組の方向性

農林業という圏域の強みを成長につなげ、地域独自の農畜産物を生かした食品関連産業の高度化や、優れた観光資源と拠点性を生かした交流人口の増加等に向けて、相互調整を行いながら、地域内の様々な資源を連携させ、付加価値を高めていくことが、第1期と同様に重要です。また、ポストコロナ時代においては、第1期ビジョンの取組の成果を生かしながら、産業、都市機能、生活関連などの地域課題の更なる解決に向けて、AI、IoT、RPAなど新たな技術を積極的に活用することや、SDGsの取組を推進することにより、盛岡広域の強みである都市機能と農山村機能の両面が高いレベルで発揮されるよう取り組む必要があります。企業誘致や人材確保においては、コロナ禍における企業の国内回帰や、サプライチェーンの見直し、テレワークの普及などにより地方への意識が高まっており、これを好機と捉え、積極的な受け入れ環境の整備が求められます。

このことから、地域内の様々な資源を連携させていくことや、持続可能な圏域を目指す観点から、第2期においても、将来像「現在をつなぎ 次代へつなぐ 共に創り育む『希望のふるさと盛岡広域圏』」の実現を目指して取り組みます。

## 圏域の中長期的な将来像

圏域の中長期的な将来像

いま  
現在をつなぎ、次代へつなぐ  
共に創り育む「希望のふるさと盛岡広域圏」

盛岡広域圏は、圏域が有する豊富な地域資源をつなぐことにより、これまでになかった新たな価値や魅力を数多く創り出し、育むことを通じて、将来にわたって選ばれる「求心力のある圏域」として、各市町が手を携え発展を続けることを目指します。

基本方針

第1期の成果を引き継ぎつつ、圏域における新たな産業、事業、商品、サービスの創造や知見の共有による、産業やサービスの質の向上等を図るために、圏域が有する豊富な地域資源の間に市町の境を越えた新たなつながりを生み出すことを基本方針とします。

### 戦略1 産業の営みをつなぐ（圏域全体の経済成長のけん引）

#### 戦略の基本方針

平成26年度に策定した盛岡広域圏経済戦略を踏まえ、「チャレンジと共創による、100年後も元気な、希望のふるさと盛岡広域圏」の実現に向け、各市町で強みとなっている産業を生かしながら、産学官の連携によりイノベーションを創出する機会を増やすとともに、ポストコロナ時代においては、AI、IoT、RPAなど新たな技術の積極的な活用や、SDGsの取組の推進により、圏域全体の戦略産業である農林業、食品関連産業、観光関連産業、IT関連産業、再生可能エネルギー関連産業を活性化させることを目指します。

また、企業誘致や人材確保においては、企業の国内回帰やサプライチェーンの見直し、テレワークの普及などにより地方への意識が高まっていることや、外国人労働者等の増加を踏まえ、ニーズ調査や受入態勢の充実を図ります。

#### 見込まれる主な成果

- 圏域の強みを生かした戦略産業が育成されるとともに、新たな技術開発や商品等の創出が図られ、圏域内の経済循環の促進及び関連産業における付加価値の向上が見込まれます。
- 各市町の地域資源の発信力の強化が見込まれます。

主な成果指標名	成果指標設定時値	目標値（令和7年度）
農林業圏域内総生産額	3,744千万円	3,931千万円
製造品出荷額等	33,440千万円	35,112千万円
第三次産業の年間売上額	346,390千万円	363,710千万円
圏域内観光客入込数	977万人回	1,028万人回

### 戦略2 人の流れをつなぐ（高次の都市機能の集積・強化）

#### 戦略の基本方針

交通の結節点であるという圏域の優位性を生かすとともに、各市町を結ぶ交通ネットワークの更なる充実を目指します。  
また、中心市街地の流動人口を増加させるため、都市機能の集積・強化を図ります。

#### 見込まれる主な成果

- 各市町を結ぶ交通ネットワークの充実を進めることにより、医療や産業などの相互利用や高度連携が見込まれ、人やモノの流れが活発化します。
- 中心市街地の都市機能の充実を図ることにより、流動人口の増加と地域活性化が見込まれます。
- 前記の取組により、圏域外からの交流人口の増加が見込まれます。

主な成果指標名	成果指標設定時値	目標値（令和7年度）
盛岡バスセンターからのバス発着便数	2,153便	2,153便

### 戦略3 暮らしの安全をつなぐ（圏域全体の生活関連機能サービスの向上）

#### 戦略の基本方針

生活関連機能サービスの広域化や技術、知見の共有などにより、各市町で提供されている生活関連機能サービスの質を高め、圏域で暮らすことに対する安心感や快適さを高めていくことを目指します。  
また、ICT技術を活用し、行政手続きのデジタル化や高齢者福祉サービスの充実を図るとともに、SDGsの理念を共有し、各施策の充実を図ります。

#### 見込まれる主な成果

- 圏域全体の生活関連機能サービスの供給体制が強化されることにより、各市町における住民生活の安心の向上につながると見込まれます。
- 生活の安心感と質の向上が図られることにより、若者の定着が促進され、持続可能な地域づくりにつながります。

主な成果指標名	成果指標設定時値	目標値（令和7年度）
圏域全体の生活関連機能サービスの向上に係る連携事業数（都市圏ビジョンの実施事業数）	23事業	26事業
盛岡広域成年後見センターにおける年間延べ相談件数	1,068件/年	1,168件/年
圏域の消費生活相談における解決率	98.5%	99.0%